

平成29年度第1回柏崎市総合計画審議会・柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事概要

- 1 日時 平成29年5月26日(金) 午後3時から午後4時55分まで
- 2 場所 柏崎市役所第二分館 2階 302会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 12名
 - (2) 庁内 市長、総合企画部長、財務部長、危機管理監、市民生活部長、福祉保健部長、産業振興部長、都市整備部長、教育部長、ガス水道局長、消防長、会計管理者、議会事務局長
 - (3) 事務局 企画政策課長、企画係長、企画係員3名

4 会議概要

- (1) 開会挨拶 総合企画部長より開会挨拶
- (2) 委員紹介 委員より自己紹介。その後、事務局紹介
- (3) 市長挨拶 市長より挨拶
- (4) 正副委員の互選 正副会長を選出。挨拶をいただく
- (5) 総合計画及び柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
資料に基づき事務局説明

(6) 議題

- ① 柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理報告書(案)について
「柏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理報告書(案)」に基づき事務局説明。
その後、委員による審議が行われた。

発 言 者

発 言 概 要

【1 地域産業の振興を図り雇用の場をつくる】

- | | |
|--------|---|
| 委員 | 介護職員と介護士が人手の象徴として挙げられているが、看護師就職支援事業で41人が市外から転入してきたとあるが、どのような助成を行っているのか。また、女性の社会進出は非常に重要であり、女性活躍推進事業で平成28年度はハード事業への助成とあるが、平成29年度以降の具体的な事業展開を教えていただきたい。 |
| 福祉保健部長 | 看護師就職支援事業については、市外からの転入就職者に対し、10万円の上乗せ補助を行っており、その効果が表れたものと思われる。 |
| 産業振興部長 | 女性活躍推進事業は平成28年度からの新規事業であり、ソフト・ハード共に対象としていたが、昨年度はハードのみであった。セミナーの開催については、男女共同参画室と共同で2回開催し、今年度も同様に取り組む予定。 |
| 委員 | 女性の活躍は今後も重要な課題である。環境面も大事だが、ソフト事業も含め女性活躍を広報宣伝するような戦略に取り組んでいただきたい。 |
| 委員 | 大学生の市内就職に対する、市内出身者及び市外出身者の割合は、 |
| 産業振興部長 | 現時点では把握していないため、改めて情報提供したい。 |
| 委員 | 市内の高校生は市内の大学へ。市外出身者の大学生は卒業後に柏崎に就職してもらいたいという思いがある。 |
| 委員 | 当社でも、平成28年度に就職支援事業を活用し採用したが、企業や事業者は制度を知っていても、採用された本人は知らなかった。U・Iターンについても、企業説明会を実施しても学生の参加が少なかった。もっと若者が情報を得るような手立てが必要。PR方法等についてなにか検討していることはあるか。 |

- 福祉保健部長 現在は、市のホームページや広報の他、事業者を通じての周知を行っているが、今後もより効果的な方法について検討したい。
- 産業振興部長 企業説明会の参加者減少については、県内他市の大学生の参加が少なかったと報告を受けている。更にPRが必要と感じている。雇用促進協議会のホームページが古いので更新予定。企業立地推進員の一人からはU・Iターンや移住を中心に対応をいただいております、首都圏を中心とした大学からの情報収集・発信に取り組んでいただいている。柏崎市の移住政策について、先進事例を参考に来年度以降、大胆な施策を展開していきたい。
- 委員 U・Iターン情報プラザの活用状況は。
- 産業振興部長 平成28年度の相談件数は40件。ネスパスでの個別相談会や企業立地推進員との連携など、今後も積極的な活用を促していきたい。
- 委員 U・Iターン情報プラザのターゲットはどのように考えているか。利用状況から非常にもったいない。
- 産業振興部長 まずは一義的にUターンをメインとしているが、Iターンや孫ターンも含め今後取り組んでいきたい。
- 委員 窓口で相談業務はどのように行われているのか。
- 産業振興部長 相談内容も多岐に渡っている。内容を把握したうえで、情報提供したい。

【2 子どもを産み育てやすいまちをつくる】

- 委員 児童クラブの利用対象が4年生までだったのが、今年度から6年生までとなったが、利用状況に影響はあったのか。
- 教育部長 昨年度4年生の児童の継続利用は、各児童クラブで1～2名程度。新規で5・6年の利用は今のところない。
- 委員 市内の事業所の話では、常に募集は出しているが集まらない。採用しても、人手不足により最初から新採用職員にも仕事が集中し、すぐに辞めてしまう者が多い。女性の活躍の機会を増やすことも良いが、国が進めている働き方改革により生産性を高めるために、限られている時間、人手の中で多くの仕事をしなければならないということが課せられる。企業も努力しているが、市としても施策として何か支援を検討しているか。
- 産業振興部長 有効求人倍率は1倍以上となっているが、職種によっては足りないなどバランスが取れていない状況。また、人手不足で企業誘致ができないという厳しい状況もある。引き続き検討していきたい。
- 市民生活部長 女性の部分では、まだ確定ではないが、子育てで仕事を辞めた方を対象に再就職に向けたテーマで女性活躍セミナーの開催を考えている。また、育児休業支援は実施しているが、時間休への支援についても今後検討していきたい。
- 委員 辞めなくても良い。復帰ができるという支援は必要。引き続き若者・女性への支援は大事である。
- 委員 少子化対策として結婚活動支援は有効的。現在、結婚しない方が増えてきており、この問題には興味がある。県内でも婚活イベントは実施されているが、なかなか発展していないという現状もある。これまでに23組とあるが、どのような支援や対応を行なっているのか。
- 教育部長 23組は10年近く取り組んでいる中での累計であり、一方では少ないという意見もあることをご承知おきいただきたい。この事業は市、商工会議所、JAが協力して実行員会を立ち上げ、年数回実施している。組数は把握している数であり、報告を求めているわけではないので、実際にはこれ以上の成功例もあると考えられる。

【3 地域の活力を担う人材をつくる】

- 委員 柏崎学の推進については、翔洋中等教育学校が具体的に取り組んでいるが、同じ柏崎学として、翔洋との連携による取組みは考えられるのか。また、柏崎学として市はどのようなことを考えているのか。
- 教育部長 柏崎学の考え方を市内全域で統一はしていないが、それぞれの機関が、柏崎学という名称を使って様々な活動に取り組んでいる。例えば博物館が柏崎学といえば、柏崎の歴史を学ぶこととなる。市の取組としては、柏崎の産業界の歴史や取組について青年会議所が実施していたお仕事体験塾を引継ぎ、それをキャリア教育に結びつけている。柏崎の歴史・産業も小学4年で学ぶこととなっており、柏崎学の推進に取り組んでいる。
- 翔洋中等教育学校の取組についても、県教育委員会と協議しながら取り組んでいきたい。
- 委員 地域のことに関して一生懸命、研究したり取り組んだりする活動が多くあると認識している。そのような方々と連携して、柏崎学に取り組んでいただきたい。
- 委員 以前、当社の職員に対し、柏崎の産業界の歴史について市の担当から話をいただいたが非常に好評だった。子どもだけでなく、親子で聞ける産業界の柏崎学があれば、子ども達も親の勤めている会社や産業に興味を持って、愛着が深まるのではないかと。
- 教育部長 機会を通じて、親子参加型の仕事体験塾は継続して実施していきたい。
- 小中学校では、教える側の教師は異動もあることから、教師が柏崎の産業界や歴史などを学ぶ研修機会を充実し、子どもたちにフィードバックできればと思う。
- 委員 地域のことを知れば知るほど愛着が深まることはある。5年間の目標で「引き続き柏崎に住みたいと思う小中学生の割合」が低くなっているが、引き続きという言葉が、ずっと柏崎に住み続けなければいけないというイメージにつながり、結果として低いのではないかと。
- 一回外に出たいと思う若者は多い。その人たちが帰ってきたくなくなるという指標があると非常に良い。
- 教育部長 指標は策定時のもので、ここでの変更は少し難しいが、必ずしもずっと柏崎に囲い込むという発想で進めているわけではない。世界に羽ばたくグローバルな人材になって欲しい。でも柏崎のことは忘れない、機会があれば帰ってきたいなど、どこにいても柏崎への誇りと愛着を持って欲しいというのが、市の目指すところである。

【4 定住を促す魅力あるまちをつくる】

- 委員 地域参画型生活交通確保事業において米山地区以外に実施している地区はあるのか。また今後の展開についてお聞きしたい。
- 企画政策課長 米山地区においては週一便ではあるが、米山地区コミュニティ振興協議会の一部経費を負担いただきながら、デマンド型で運行している。今後もこのような形で生活交通を維持していきたいと考えているが、現時点では米山地区のみである。他の地域からも要望があれば検討していきたい。
- 委員 地域公共交通の衰退は地域の衰退につながる。今後の施策に期待したい。
- 委員 地域活性化対策事業で、高柳地域に地域おこし協力隊が入っていたが、今後は市内全域を対象となっている。現時点で地域おこし協力隊を受け入れたいという地区はあるのか。市として何人程度受け入れを計画しているか。また、任期終了後のビジョンをどのように考えているのかお聞きしたい。
- 市民生活部長 受入については高柳の事例も踏まえながら現在検討中である。対象を市内全域とし

たが、地域を限らないというものである。ただ地域とのマッチングも重要。受入地域の掘り起しや、お試し期間の設定なども含め取り組んでいきたい。

委員 協力隊を受け入れる地域も準備が大変であり覚悟も必要。受入後のケアも非常に重要。地域・協力隊・行政と連携した取り組みが必要。

委員 協力隊は民間の方になるのか。

市民生活部長 主に都市部など外部の方が多く、市の非常勤職員として雇用し、地域活動に対応をいただいている。

委員 協力隊に応募される方は、どのように情報を得ているのか。

市民生活部長 田舎暮らしに関係する情報誌や情報サイト等を通じて案内していきたい。

委員 市としては今のところ、発信していないのか。

市民生活部長 今後、取り組んでいきたい。

委員 柏崎米のブランド化とあるが、米市場の競争は厳しく、美味しいものが多い柏崎において、米をブランド化する意図は。

産業振興部長 平成30年度になると、助成の廃止や自由競争化など非常に厳しい状況になることが見込まれる。このことから、柏崎の米を認証制度により差別化し米のブランド化を図り、農家所得の向上も目指したい。

委員 ブランド米は、今後は厳しいと思われる。これからは販路をどこに持っていかかが重要。日本市場は米の消費量低下もあり、高いブランド力のある米も多くある。佐渡の米が海外展開で高評価を得ていることから、海外に視野を向けた方が良いのではないか。

産業振興部長 米の生産量が多い農家は、自身で販路拡大に取り組んでいる。それ以外の農家はJ Aに出しているが、レベルの高い米も他のものとミックスされて出荷されている。今後はブランド化を図り、他の米とミックスせずに個別に袋入れし売り出す方向で、販路拡大も含めJ Aと検討していきたい。

委員 水球のまちづくり柏崎推進事業については、まだ外向きの事業展開が多い。「水球のまち」として売り出すには、市民の醸成も必要。市民向けのPRはどのように実施しているのか。

教育部長 市民に浸透しているかという点、メジャーなスポーツに比べると弱い。海外等のトップチーム招聘の際のメディア周知やFacebookの開設、各種イベント参加での水球周知など、今年度「水球のまち推進室」を設置し、様々な工夫により市民への周知を図りたい。

【全体を通じて】

委員 総合計画や総合戦略の推進については市の職員だけでは限界がある。策定に関わった委員も含め、市民に周知する方法についても検討していただきたい。

(7) その他

次回：7月中旬開催予定

(8) 閉会あいさつ

副会長より閉会の挨拶。